

令和 7 年 4 月 30 日水曜日

13:00～14:00

山科事務所にて

定期巡回のクローバー

令和 7 年度一回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス

介護・医療連携推進会議原稿

出席者：名簿参照

(1) クローバー挨拶、構成員紹介(別紙：構成員名簿あり)

代表星野より挨拶

2023 年度は介護職員が 212 万 6 千人従事。前年度と比べ 2 万 8 千人減少。2000 年度の介護保険が始まって以来初の減少。

生産年齢人口が減少し、高齢者が増えている一方で、その支援に携わる人が減っている。地域にある社会福祉協議会のメンバーも、高齢化により抜けていっておられるようで、クローバーにも参加のお話が来ている。

事業所ごとの働いている人数が減り、事業所の合併も散見されている。

ご利用者にも影響が出ており、馴染みの近くにある事業所がなくなった為、クローバーにも夜間訪問型で引き継ぎのような事例も何度もあった。

定期巡回サービスも数が少ないサービスで、さらに地域提供がメインとなると非常に稀有(けう)な存在である。

なんとか、この醍醐や山科の地域で試行錯誤しながら、生産性を高めるとともに、働きやすい職場を目指し職員さんを集め、働いている職員さんにもやりがいを持って頂き、介護の仕事は楽しく、やりがいを感じながら、他産業に負けない給与水準を目指して、介護業界をアピールしていきたい。

(2) R6 年 9 月から R7 年 4 月中旬までの事業所の動きについて

○醍醐事業所〔山科サテライト含む〕について

・ご利用者の推移：R6 年 9 月末 ご利用者数 34 名 平均要介護度 3.45

(内入院等 4 名)

R7 月 4 月中旬

50 名（うち入院 5 名

夜間訪問型 9 名）3.18

相談件数：10 月 8 件 11 月 5 件 12 月 7 件 R7 年 1 月 14 件 2 月 9 件 3 月 7 件 計 50 件
「山科・夜間訪問型含む」

例年であれば 12 月 1 月 2 月と依頼や相談が少なくなる時期で有るが今期は相談件数が多く、
契約に繋がることも多く利用者数が増加した。

定期巡回に依頼が増えているのはサービスが浸透してきているのか？滞在型の訪問会議事業所
が減少していたり、ヘルパーが不足し依頼先が見つからないためか？地域の状況は分からない
が・・・

・林氏、岩原氏ご意見や情報有りますか？

林氏：障害サービスを利用されていたが、65 歳を向けて介護保険に移行された際にサービスの
入り方の違い（量）によりご理解頂くのが難しいこともある。精神障害をお持ちの利用者に
ついて、介護保険のヘルパーなので対応できませんと断られ、ヘルパーの受け入れ先を探すの
に苦慮したことがあった。精神障害をお持ちの方を支えられる事業所が増えれば良いと感じ
ている。

岩原氏：朝晩のヘルパーの確保は困難だが、日中の支援についてはそこまで獲得困難なように
思わない。定期巡回の認知度が高まっている事もあるだろうし、複合的な課題を持っておられ
る方も多いことも因子のように思う。2025 年を迎え団塊の世代が 75 歳に到達した。今か
らが介護サービスの利用者がドッと増えてくると思うが、今現在破綻を迎えているわけではな
い。地域の方々始め色々な人の頑張りがあってのことだと思っている。それぞれが褒めてあげ
ても良いのではないかな。

R6 年 7 月に定期巡回サービスにおいて夜間訪問型サービスを実施できるようになったが、依
頼は殆ど無い状態であった。しかし、夜間対応型事業所が移転されることとなり醍醐・山科地
域への提供が出来なくなったとのことで弊社への依頼があり現在 9 件の夜間訪問型の対応をし
ている。

・この間で地域の方を含め、居宅や医療の方から共有しておきたい何か情報はありますか？

・民生委員や老人福祉委員、社協と連携することはありましたか？

林氏：昨年 6 月から西野山団地でコミュニティカフェが継続して実施されており、そこから相
談が来るが増えてきた。

Ex: コミュニティカフェに出てこられた方から尿臭がしていたり椅子が濡れていたたりするので、
包括さん関わってもらえないか等 外に出てもらうきっかけが出来たからこそその気づきで、包
括単体では掘り起こせなかった事案と感じている。

鵜飼氏：介護保険を持ってもらえず、ガン末期の患者さんで直接病院から依頼がくるケースが

ある。医療で支えられる所はできるが、どうしても生活の面を支えることが出来ず定期巡回に力になってもらっている。介護と医療の役割分担をして対応していくことが大事だと思っている。地域の「看取り力」もアップさせたいと思っているが、定期巡回はその助けに大きくなってもらっている。

長谷川氏：カフェスペースで地域の方との交流を継続して行っている。一件、家の中で亡くなっておられ二日くらい経過していたという事案があった。あまり看取りというお話は地域で自分自身は今のところ聞いていない。自分自身の家族も体調が悪くなって高齢サポートに相談することがあった。そういうことがあった時にどこに相談したら良いのか、分かっている人も分からない人もいる。私に言ってくれても良いし、高齢サポートに相談するのが良いよ、と広報している。

（３）周知活動について（別紙有り）

●毎月醍醐と山科を各１日ずつ居宅や病院の地域連携室、包括、訪看などを訪問し周知活動を行った。

毎月の空き状況や今気をつけて頂きたいこと、例えば脱水など。定巡の有効な利用方法などチラシを持参し訪問した。

●醍醐小学区社会福祉協議会に参加

・４月１９日会合に参加。会長が弊社のことを知っていてくださり声を掛けていただく。

・５月２３日の「ふれあいプラットフォーム」にも参加予定。

伏見区地域支え合いコーディネーターの斎藤氏より声をかけて頂く。様々な事業所に声を掛けておられ、地域をつないでいく活動のようです。

山科区社協にもコーディネーターがおひとりいらっしゃる。広報誌など配布などされている。

●TUMUGI プロジェクト・・・地域密着型サービスとして地域に根ざした事業所となるべく、地域の方と少しずつ関係を持つため、そして「頼れる介護サービス事業所がここにありますよ」と知って頂く為、毎月第３金曜日１３時～に醍醐事務所の和室を開放し「裂き織り会」を開催している。弊社のご利用者に対しても裂き織りをしてもらっている。

笑顔いっぱいの会の皆様の協力を得て少しずつ参加して下さる方が広がって行きつつ有る。先日松井氏が裂き布でマットを作成して下さり、裂いて下さった方にお渡しすることができ、大変喜んで頂く事が出来た。その方が是非松井氏に会いたいと話され裂き織り会の介護者付き添いで来たいと話されているとのこと。近隣の方ではないが縁が広がっていることを感じています。

●池田東学区「すこやか学級」参加

昨年に引き続き参加を継続することとなった。

斎藤氏より：他の学校のすこやか学級には参加されるおつもりはあるか？との話あり。他の健やか学級等から社協に色んな企画を考えて欲しいという依頼が来たりする為、継続的な参加は負担が大きいと思うが、年に一回などピンポイントでの参加などもし良かったら調整しますので仰って頂きたいとの相談あり。

弊社としては6月以降であれば人員の整理がつくためご相談に応じられるかもしれないと返答している。

山科の方でもそのような地域活動へ参加をと言うのがあればご相談ください。

地域活動において求められていることはどういったことか？どうすれば地域で、ご自宅で困っておられたり、孤独でおられたり、関わりを持ちたいが持てない方達を見つけ出すことが出来るのか？

・皆様に意見をお願いします。

末國氏：クローバーがどこにあるのか知らない人が多数。知名度が圧倒的にないのではない。PRが大事。なんでも根気よく何回も活動が続ける、色んな場に数出るしかない。以前もらった話も尻切れトンボになってるが、ああいう活動を積極的にされていくのが良いと思う。土曜日のふれあい（健康すこやか学級）も継続してやってるし参加してもらったら。

（４）その他

末國氏より：勸修交番との意見交換会が開催された。

振込詐欺の増加。一日に3億円ほど全国で被害が上がっている。山科でも増加している。近年は国際的な規模の物が増えている。外国からの電話は受け付けないようにすることが山科警察の生活安全課に行くと対応してもらえる。

交通事故について。外環状線で一番起きている。死亡事故も発生してしまった。（薬科大学の交差点）朝の交通量が多い時間帯に発生件数が多い。20代が事故発生させている傾向が高い。

避難グッズ、自転車事故の罰金規制強化に伴い4つの大きな事故要因について別紙参照。

勸修小学校：全校生徒数が400名を切った。小学校での研修するのなら早く言ってほしい。山科の社協も運営は大変になっている。ボランティア活動を頼むのも苦勞している。橘大学の学生にも手伝いに来てもらったりと協力してもらっており、今後も橘大学に依頼していると思っている。

来年山科区になって50周年。いろいろとイベントも開催される予定。義士祭りも記念年を迎え併せたイベントが開催されると思うが、それらも橘大学と協力してもらって進めたいと思っている。

市営団地にも空き部屋に学生をもっと入れていったら良いと考えている。そうしていくと治安もずいぶん変わってくると思う。

次回 R7 年度第 2 回 介護・医療連携推進会議 ：令和 7 年 1 0 月に予定しております。ご協力をお願いいたします。

以上